NPO 法人 World Theater Project

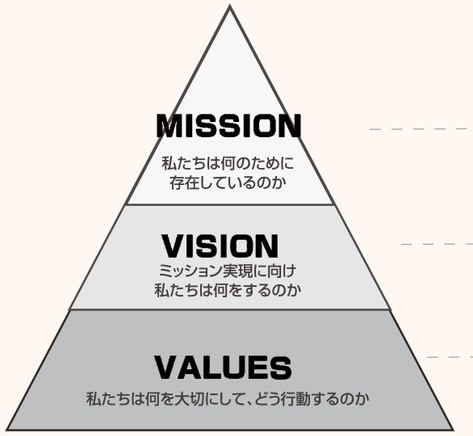
2016 年度年次報告書

ある日、教室が映画館に変わり、
新しい世界を知った

World Theater Project

World Theater Projectは、映画を観られる環境がない地域に暮らす子どもたちへ、移動映画館で映画を届ける活動をしています。

一カ国目として、カンボジアでロールモデルを形成中。
これまで3万人を超える子どもたちに映画を届けてきました。（2017年3月現在）

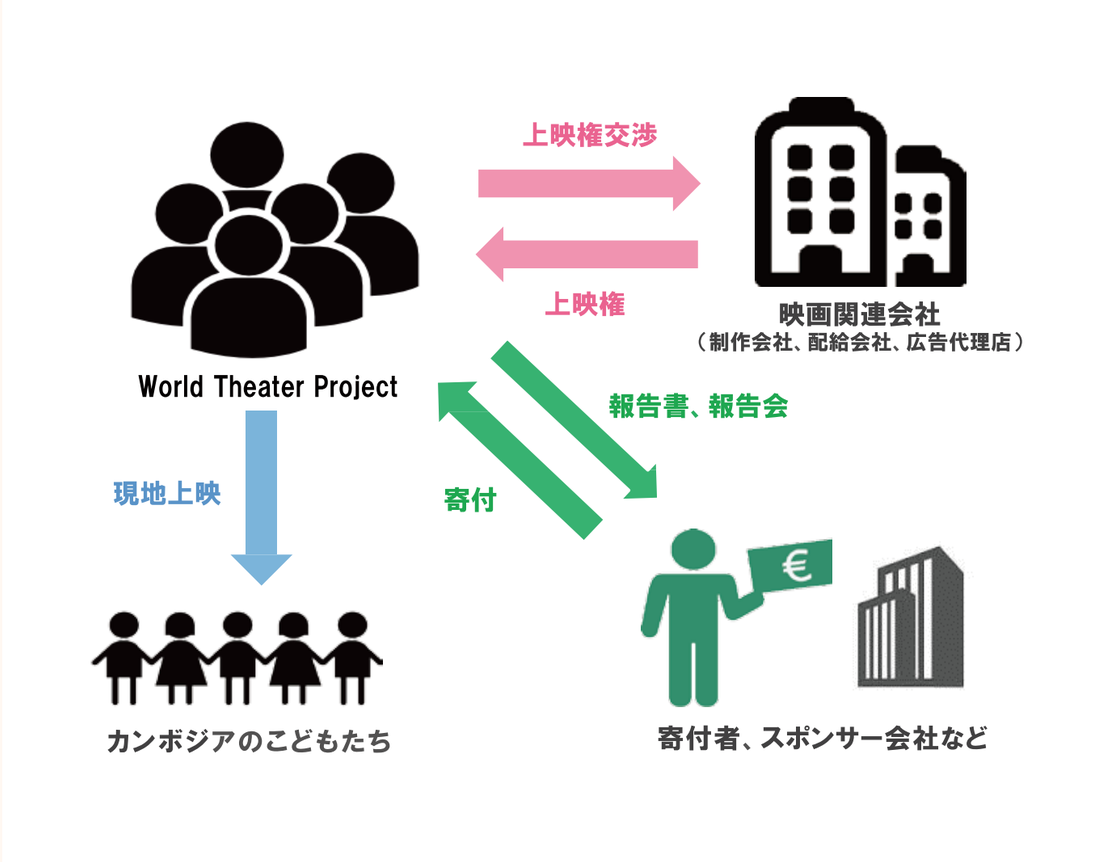


生まれ育った環境に関係なく、子どもたちが夢を持ち人生を切り拓ける世界をつくる

すべての子どもたちに映画体験を

映画を観られる環境にいない子どもたちへ移動映画館でコミュニティに映画体験を届ける

映画上映のしくみ



なぜ映画なの?

途上国の農村部に暮らす子どもたちに将来の夢を聞くと、答えられないか、「先生」か「医者」という回答しかない場合がほとんどです。知らない夢は、思い描くことができません。

映画は生きていく上で絶対に必要なものではありませんが、ときに生きる目的や、心への栄養を与えてくれるものです。

映画と子どもにまつわる話

あるカンボジアの青年は、6歳の時に映画を観たそうです。映画の中には、貧しくても勉学に励み、やがて成功する主人公の姿がありました。

「自分もこの映画の主人公のようになりたい」。彼は一生懸命勉強して、現在日本のNPOで活躍しています。私たちは、映画を観た子どもたちに、この青年のような夢の種が宿ることを願っています。

ご支援くださった皆様へ

皆様のおかげで、2016 年度は 21,700 人の子どもたちに映画を届けることができました。数字で書くと無機質な感じがしてしまいますのでポエム風に書き直しますと、皆様のおかげで、カンボジアに 21,700 個の笑顔が咲きました。あたたかいご支援に心より感謝申し上げます。

昨年 10 月にカンボジアを訪れた時、二つの印象的な出来事がありました。一つは、ある村での子どもたちの夢。
私たちはカンボジアの様々な村で子どもたちに「将来の夢」をインタビューしてきたのですが、答えはいつも「先生」か「医者」でした。

でもその村で初めて声をかけたスレイピンちゃんという女の子は、無邪気に元気よく「映画監督」と答えました。理由を聞くと、「今年初めて映画というものを知って面白かったから」。その次に聞いた男の子の答えは、「画家」。

子どもたちから様々な答えが出てきたその村は、映画配達人サロンが暮らす村でした。その村では、映画の影響力の調査も兼ねて、他の村よりもかなり頻繁に上映を行っているのです。スレイピンちゃんは映画が大好きになって、スレイピンちゃんから話を聞いたお姉ちゃんも時々一緒に観に行くとのことでした。

もう一つは、バッタンバン州市内から 2 時間くらい車で行った場所にある村。そこで上映したのは『シアター･プノンペン』。カンボジア人のソト・クォーリカー監督が私たちに作品を託してくださったのです。同作は、クメール・ルージュ時代のことが描かれた映画です。

カンボジアでは、その時代のことを話すことが暗黙の了解でタブーになっているそうです。大人たちは辛い時代のことを語りたがらず、若い世代はクメール・ルージュ時代に興味がありません。クォーリカー監督は、若者たちも自国の負の歴史である過去と向き合うことで、前に進んでいければという思いで、『シアター・プノンペン』を制作されました。

クメール・ルージュ時代のことを話題にできない理由の一つに、ポルポトの兵士だった加害者側と被害者側が近所で暮らしている村もあるからとのこと。
私たちがその日訪れた村は、まさに加害者と被害者が、お互いそのことに触れずに共生している村でした。夜、村長の家の庭で上映された『シアター・プノンペン』を、村の方たちは吸い込まれるように観ていました。終わった後、何かを話して帰らない村の人たち。話を聞きに行くと、彼らは「戦争はいけない」という話をしていました。一番声高にそのセリフを言っていた男性が、おもむろにサンダルを脱いで足の指を見せてくれました。足の指はありませんでした。内戦中、地雷を踏んだそうです。その男性は、ポルポトの兵士だった方でした。普段は決して話さないことを話し、会ってすぐの私にも傷を見せてくれたのは、映画というきっかけがあったからかもしれません。
そのことをプノンペンに帰ってからクォーリカー監督に報告すると、涙を流していました。映画には人と人をつなげる力があるのだと改めて思いました。

映画の力を誰よりも目の当たりにしているのは私たちなのかもしれません。

これからは、ワクチンや食糧のように生きる上で必要ではないと言わずに、「映画の力」と、その必要性を強く訴えていける団体になっていきたいと思います。

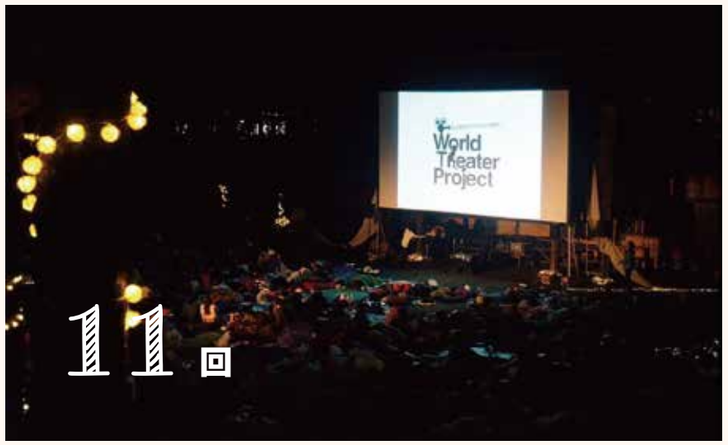
教来石　小織
（きょうらいせき・さおり）

数字で振り返るWorld Theater Projectの2016年度

累計の映画を届けた子どもたちの人数がついに3万人を突破しました。

カンボジア映画配達事業の完全ローカライズが完了し、日本人駐在員なしで、週2回のペースで映画配達を行えるようになりました。

国内でイベントを計12回開催しました。たくさんの方にご参加いただきました。



『夜空と交差する森の映画祭』をはじめ、11回講演の機会をいただきました。また、NHKワールドをはじめ、TVやラジオなど各種メディアにも取り上げていただきました。

World Theater Project 三大ニュース

新・上映作品として、
『パンダコパンダ／
パンダコパンダ 雨ふりサーカス』
が加わりました!

"THE ADVENTURE OF PANDA AND FRIENDS"
© TMS　All Rights Reserved

映画『この世界の片隅に』の埼玉県内での
非劇場営業権を付与いただきました!
（株式会社東京現像所様より。2017年6月1日から2年間）

World Theater Projectの
マスコットキャラクター「フィル」と「ムー」が誕生しました!

小さな街の人たちに愛された映画館で
生まれた映画の妖精です。

映画を観ている人たちを見るのが好き。

ポップコーンの食べ過ぎで黄色くなりました。

頭に被っているフィルム帽（草間彌生さんの
オブジェではありません）の中が、
どうなっているかは秘密。
飴がでてくることもあれば、
映写機になることもあります。

ムー　　フィル

映画館に落ちていた夢の種です。

花言葉が「夢」の花である、「デイゴ」の種だという噂も。

世界的に著名な「ウサビッチ」をデザイン制作された
有限会社カナバングラフィックスの宮崎あぐりさんに
制作いただきました。

カンボジア事業部

移動映画館の流れ

1 スケジュール作成

シェムリアップ州とバッタンバン州のカンボジア人スタッフが、それぞれ上映スケジュールを作成します。学校の休校などの関係で、季節によって上映頻度は異なりますが、平均して週2回のペースで上映を行っています。

2 上映場所へのアポイントメント

広場や寺院など、様々な場所で上映していますが、一番多い上映場所は学校です。授業の関係もあるため、先生に直接会いに行ってスケジュールの調整をすることもあれば、電話で決めることもあります。

3 上映

上映地へ出発

映画配達人は、普段はトゥクトゥク（三輪タクシー）の運転手をしているため、トゥクトゥクで上映機材（スクリーン、プロジェクター、発電機など）を運びます。

上映の準備

スクリーンの組み立て、発電機、プロジェクターの準備、教室の準備（窓を閉めて教室を暗くするなど）を行います。

上映

いよいよ上映開始です。発電機が止まるなど上映トラブルが起きることがあるので、映画配達人は上映の間、教室の中などで子どもたちの様子を見守ります。

ワークショップ

上映前後には、映画にまつわるワークショップを行うこともあります。例えば、主人公がフルート奏者を目指す『ハルのふえ』を観終わった後には、フルートの演奏体験を行いました。

4 上映実施の報告

上映後は、上映校、映画を観た子どもたちの人数や感想などを、日本のスタッフに随時報告します。

カンボジア現地の体制

活動のローカライズ、達成

山下(2015年9月～2016年9月)、大西(2016年9月～2017年3月)と日本人の駐在員をカンボジアに置いて活動を続けてきましたが、2017年3月をもって、完全ローカライズ※が実現しました。
今後は、現地のリーダーを新カンボジア人スタッフのサムナンに任せ、日本のスタッフと連携を取りながら活動を進めていきます。

※ローカライズとは:
日本人駐在員を置かず、カンボジア人スタッフのみで、
カンボジアでの映画配達事業を行うこと

全体リーダー　サムナン

シェムリアップ州リーダー　ナット

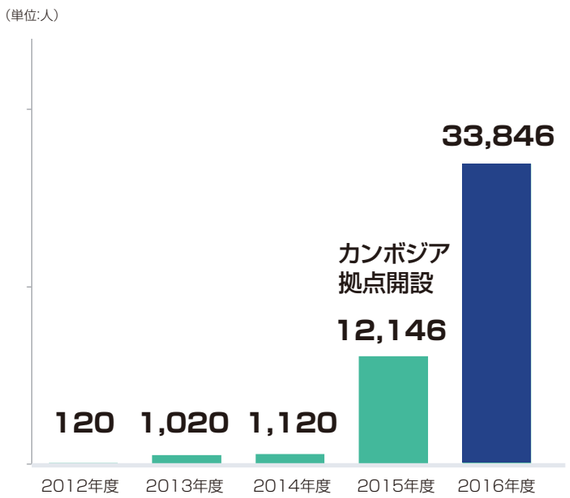
バッタンバン州リーダー　サロン

2016年度上映の実績

累計上映動員数

33,846人

2016年度は、カンボジア拠点での移動上映が安定化したこともあり、年間で21,700人の子どもたちに映画を届け、当初の目標を上回りました。
2012年度からの累計上映動員数は、ついに3万人を突破しました。2017年度は、累計上映動員数43,846人を目指していきます。



映画を観た子どもたちの感想

上映の詳細

日時:　2017年2月10日(金)
場所:　カンボジア コンポンスピュー州 チバーモン群 ワッサーcommune タッコアン村
上映作品:「ハルのふえ」「パンダコパンダ」「シアター・プノンペン」
配達人:　サロン、サロンの妻、サロンの妻の妹

タッコアン村は、カンボジアの首都プノンペンから車で1時間30分ほど行ったところ。村の人口は約150人。子どもの割合は70%程度。首都プノンペンと海に挟まれた地域のため、裁縫が盛んで、多くの村人が裁縫工場に勤めてます。月のお給料は200$ほど。

上映の様子

夕方からスクリーンやプロジェクターなどの設営を始め、子どもたちは10人15人ほどしか集まっていませんでした。しかし、あたりが暗くなるにつれて、徐々に人が集まってきました。暗くなる前に数えた子どもの数は37人でしたが、それ以降も子どもや親が集まってきて、みんなで映画を楽しんでいました。

映画の感想

名前:ササちゃん

サロン　：　映画はどうでしたか?(『ハルのふえ』鑑賞後)
ササちゃん：　いい映画だと思いました。

サロン　：　この映画をすきですか?
ササちゃん：　好きです。

サロン　：　誰が一番好きですか?
ササちゃん：　主人公のパルが一番好きです。頭がいいから、パルのようになりたいと思いました。

サロン　：　夢は何ですか?
ササちゃん：　パルのように音楽を演奏したいです。

子どもたちや先生の声

友達の中には学校になかなか来ない子、
勉強を真面目にしない子がいる。
そんな子たちに、
映画が勉強をするきっかけになると思う

カンボジア国内で、
ブラウン管から流れてくるアニメなどの
映像の質はお世辞にもいいとは言えません。
村で映画を上映していても、
「質がいいからまた上映してほしい」
という言葉をよく親や子どもからもらいます

映画を通して、
学校が楽しい場所と
思ってもらえたらいい

ボランティアが
学校に来てくれたのは初めてで、
とても嬉しかった

ワークショップの充実

映画鑑賞前後に実施しているワークショップで、新しい取り組みを行いました。

職業について考えるワークショップ

株式会社ジェイフィール様と、映画の上映後、まずは映画という切り口から、アニメがどうやって出来ているのかを紹介しました。「アニメ制作には、どのような人が関わっているでしょうか?」という問いかけを通じて、映画に関わる職業について考えました。その後、お題として、サッカー選手、医者、先生、レストランのオーナーなどを上げ、その職業に就くにはどうすればいいのかをグループになって考えてもらいました。画用紙の真ん中に職業名を書き、その周辺にお題の職業に就くために必要なことを書いていきます。

このワークショップは、特に低学年の生徒たちには難しかったようで、なかなか意見を出せていませんでした。何回か繰り返して改良を行い、徐々に会話が弾むようになっていきました。子どもたちが将来の夢についてより深く考えられるようになりました。

絵を描くワークショップ

▼上映前

▼上映後

上映の前後での子どもたちの反応を見たいと考え、上映の前と後に絵を描くワークショップを継続して行っています。小学校高学年の子どもたちに特に人気の『パンダコパンダ』の上映後は、映画で見たパパンダとパンが心に残っているのか、パンダの絵を描く子どもたちが多いです。

広がる協力者の輪

**女性監督クォーリカーさんから
ご支援をいただきました**

世界的に注目を浴びているカンボジア人女性監督ソト・クォーリカー（Sotho Kulikar）さんに活動を支えてもらっていました。彼女の作品を村で上映したり、配給会社や監督を紹介してもらいました。以下は、クォーリカーさんから頂いた言葉です。
「カンボジア人は、多くのものを失いすぎた。人だけではなく、歴史や文化。そして、人生のモデル。多くのカンボジア人は、先の見えない中でもがいている。映画は、彼らに道を示すことができる。」

**バッタンバン州知事から
活動のサポートをいただきました**

活動を始めて間もない頃に州に後援を求めましたが、スタッフと共に関係各所をたらい回しにされ失敗に終わりました。しかし、諦めずに活動を継続している内に、評価していただき、正式に州からサポートをいただくまでに至りました。

**カンボジアのプリンセスに
お会いしました**

皇族のシソワス・シルビア（Sisowath Sylvia）さんが、World Theater Projectの活動に興味を持たれ、連絡をくださいました。
お会いしたらとても素晴らしい女性で、スタッフのモチベーションも上がりました。

上映作品のご紹介

"HAL'S FLUTE"
© Takashi Yanase/TMS
All Rights Reserved

『ハルのふえ』
（株式会社トムス・エンタテインメント）
アンパンマンシリーズを手掛けたやなせたかし氏の絵本が原作となった、タヌキと人間の親子の絆を描いた感動のアニメーション作品。人間の赤ちゃん・パルを拾ったタヌキのハルは、人間の姿に化けながら、パルを大切に育てていく。成長したパルは、音楽家に笛の才能を認められ、ある決心をする。

権利元　株式会社　白組

『劇場版　ゆうとくんがいく』
（株式会社白組）
サッカー選手・長友佑都選手をモデルにした主人公・ゆうとくんが、サッカーとを通して成長していく姿を描いた短編アニメーション作品の劇場版。世界で活躍するゆうとくんの前に、強大なライバルが出現。さらなる成長を目指し、"レジェンド"と呼ばれる伝説のサッカー選手に出会う旅が始まる。

権利元　株式会社学研ホールディングス

『ニルスのふしぎな旅』
(株式会社学研ホールディングス)
スウェーデンの児童文学が原作となったアニメーション作品の劇場版。数々のヒット作を手掛ける押井守氏が演出を担当し、主人公の冒険の様子がいきいきと描かれている。主人公のニルスはある日、妖精を怒らせ、身体を小さくされてしまう。ニルスは、動物たちと空飛ぶ冒険を始め、友情を深めていく。

"THE ADVENTURE OF PANDA AND FRIENDS"
© TMS　All Rights Reserved

『パンダコパンダ／
パンダコパンダ 雨ふりサーカス』
（株式会社トムス・エンタテインメント）
新上映作品。スタジオジブリの大傑作『となりのトトロ』の原型と評された、宮崎駿脚本・高畑勲監督のアニメーション作品。竹林の中の祖母の家で、一人、留守番をする元気いっぱいの少女、ミミ子。そこに突如現れた"パンダ親子"とミミ子の愉快な共同生活が始まる。この不思議なパンダはどこから来たのか、そしてささやかな三人の暮らしは、一体どうなるのだろうか。

『シアター・プノンペン』（Hanuman Films）
ソト・クォーリカー監督作品。第27回東京国際映画祭「アジアの未来」部門で国際交流基金アジアセンター特別賞を受賞。主人公・ソボンは、かつて祖母が出演していたという伝説の映画を観るため、隠された歴史を探る。そこには、ポル・ポト政権下にあったカンボジアの激動の時代と、祖母の秘密の青春があった。カンボジアと映画、二つの特別な過去が明らかにされる。

ぼくをモデルにしたアニメ『ゆうとくんがいく』が映画になり、途上国の子どもたちにも観てもらえていることを知りとても嬉しく思います。映画で夢の種をまくというWorld Theater Projectの活動を心から応援しています。
世界一のサッカー選手を目指し奮闘する「ゆうとくん」が、子どもたちにとってサッカー選手、あるいは何かを目指すきっかけになることを願っています。

長友佑都 / サッカー選手

スタディツアー事業部

全体報告

1.　スタディツアー事業について

2016年度より新規事業としてスタディツアー事業が始動しました。

スタディツアーとは、観光を目的としたツアーと違い、“学習を目的としたツアー”です。旅行会社様と共に、弊団体の活動を活かした学びのあるツアーの企画･運営を行っています。

上映体験を通して一般の方に上映活動への理解を深めていただくこと、事業を通して得られるご支援を本業に充て、安定的に子どもたちに映画を届けることが目的です。

2.　2016年度目標と達成度について

昨年度は年4回のツアーを実施することを目標に取り組みました。

残念ながら秋季ツアーが企画段階で中止となってしまいましたが、それでもゴールデンウィーク（GW）、夏季、春季と年3回のツアーを行うことができました。

3.活動の詳細

下記の通りスタディツアーを開催しました。

	GWツアー	夏季ツアー	春季ツアー
共同開催旅行会社様	株式会社エイチ･アイ･エス	株式会社エイチ･アイ･エス	株式会社ピース･イン･ツアー
実施期間	2016/4/30(金)～5/4(水)	2016/9/12(月)～9/17(土)	2017/2/18(土)～2/23(木)
参加人数	10名	4名	9名

ツアーの様子　観光

世界遺産アンコールワットや地雷博物館、カンボジア伝統舞踊（アプサラダンス）鑑賞など、カンボジアの文化や歴史に触れる観光ツアーをスタディツアー内に組み込んでいます。

ツアーの様子　上映会とレクリエーション

現地の映画配達人と共に子どもたちに映画鑑賞という特別な体験を届けます。上映後は、子どもたちと共にレクリエーションを行ったり、インタビューをしたりして交流を深めます。

電気のない村で初めて映画を観る子どもたちの姿を見て、参加者の1人梅田紳平くんがこのような感想を残してくれました。「映画を上映してみると、それは想像とはまるで違っていました。さっきまで騒がしかった教室が、映画が始まった途端静かになって、子どもたちは、それこそまさに食い入るように映画を観ていました。その様子から本当に楽しんでいるんだと感じましたし、なによりもその目は本当にキラキラしていました。僕には、その子どもたちの目が、映画を届けることの必要性を物語っているように感じました。」

次年度目標

映画上映とスタディツアーには共通点があります。映画を届けたからといって子どもたちの生活がすぐに変わるわけでもなければ、スタディツアーに参加したからといってその人たちの生活が劇的に変わることもないでしょう。しかし、映画を観た体験、ツアーに参加した経験は、その人たちの心の中で“夢の種”として残り、いつか芽が出る日が来るかもしれない可能性を秘めています。

我々のミッションは「生まれ育った環境に関係なく、子どもたちが夢を持ち人生を切り拓ける世界をつくる」ですが、モノも情報も映画も溢れている日本にいるからこそ気づけないことがたくさんあると思います。だからこそ、参加者の皆様にカンボジアで上映体験をしたからこその気づきを得ていただけるようなツアーを目指しています。

今回ツアーの感想を提供して下さった坂下さんのような体験を参加者されたすべての方にしていただきたく、本年度はツアーの質の向上にも力を入れていきます。

年4回スタディツアーの実施
（夏2回、春2回を予定）

上映会の満足度向上

参加者　坂下百音さんの声

参加の理由

大学3年生になり大学では就職セミナーが開催され、周囲の友人はインターンシップ先を探し始めるなど就職を意識する時期になりました。私は自分が将来何をしたいかが見つからず、するべきことも分からず悩んでいたので、とりあえず自分が何をしてみたいのかを探すために、興味を持ったもの･目についたものには可能な限り参加しようと考えていました。

ある日、東南アジアに行ったことがないから行ってみたいなと思い、HISのホームページで調べている時にこのツアーを見つけました。正直な最初の印象は「スタディツアー、、、ボランティアか。あまり興味ないかな。」というものでした。海外ボランティアに参加したことのある友人の話を聞くと、一時的な物資の支援をしたり少し子どもたちと遊んだりして帰ってくるだけで、根本から救ってあげることはできないし、結局のところ「ボランティアに行った」という自己満足なのではないかと思い、いつも誘われても断っていました。それでも続けてページを読んでいると、“映画”という単語が目に入りました。「わざわざ届けるものが映画なの?なんでだろう?ちょっと気になる。」と思い、先ほど申し上げました通り興味を持ったらやってみることにしていたので参加を決めました。

上映体験を通じて感じたこと

現地に行ってみて私が一番ショックを受けたことは“夢”という概念がないことでした。

でも、考えてみれば幼いころ抱いた夢のほとんどは実際に自分が両親の仕事、街中で見かけた職業やテレビ･映画･本などを媒体として知った職業でした。

なので“知る”という機会や対象が少ない途上国で“夢”という概念がないことは当然のことなのかもしれないと思いました。実際に現地で夢を尋ねてみると先生や医者になりたいと答える子が多かったのですが、それは夢ではなく私たちの感覚だと“目標”に近いものなのではないかと感じました。

最終日、映画の上映の前後で子どもたちにインタビューする時間を設けていただき、上映後に映画を観た感想を尋ねると私がインタビューした子は「もっと色々なことを頑張りたいと思った」と言ってくれました。今回上映した『ニルスの不思議な旅』は具体的な夢を示唆する内容ではなかったのですが、観るだけでこんなに前向きな気持ちになれるなんて映画ってすごいなと思いました。

夢の種まき

World Theater Projectは映画を通じた“夢の種まき”だと代表である教来石さんがおっしゃっています。まかれた種が子どもたちの中に根付き、育ち、いつの日か花を咲かせてくれたらとても素敵だと思います。しかし、先進国･途上国関係なくそうなのですが、多くの人の夢は叶いません。失敗や挫折を経て諦めてしまったり、大人になるにつれて現実的に物事を考えるようになり、いつしか夢を忘れてしまったりします。

フランス出身の有名なデザイナー、ココ･シャネルの名言にこのようなものがあります。

「実際にどう生きたかということは問題ではないのです。大切なのはどんな人生を夢見たかということだけ。」私はこの言葉を初めて聞いたとき理解できませんでした。実際に歩んだ人生よりもどんな夢を抱いていたかの方が大切ということが、どうしても腑に落ちなかったのです。

しかし、このツアー中にふとこの言葉を思い出して考えてみたんです。シャネルは「どんな人生を夢見たか」が大切だと言っていますが、この言葉には続きがあるのではないかと思うようになりました。私はどんな人生を夢見て、その夢のために何をしてみようと思ったか、何をしてみたかが大切なのではないかと考えたのです。要するに夢への過程です。

私は人生というのは夢の繰り返しだと思っています。ある一つの夢が叶ったらまた新たな夢がその先に生まれると思うし、ある一つの夢に挫折してしまってもまた新たな夢が生まれると思うのです。これらの夢を叶えるための過程が人生の大部分にあたるので、その過程をいかに充実した素敵な時間にするかが大切なのではないかと感じました。

このツアーを通して「どんな人生を夢見たか」というシャネルの言葉を、自分なりに飲み込めるようになったことは、私にとってとても大きな出来事でした。

Filmeet(フィルミート)事業部

Filmeetとは、Film + Meet を意味し、新たな映画との出会い や 映画を通じた、人・場所・食・価値観に出会えるプラットフォームです。日本国内で映画に関連するイベントを定期的に開催し、そこで出た利益を映画配達事業に還元しています。
2015年度から活動を開始して、2017年度で3年目を迎えます。
「先進国の人が映画を観たら、途上国の子どもも映画を観ることができる」
そんな仕組みを目指しています。

2016年度活動サマリー

■ Filmeet 新ロゴの完成
■ 2016年度 イベント実績(関東･関西合計)
　イベント数:8回、
　イベント参加者:159人
■ ホームページでの映画コラムの開始

2016年度は、従来のロゴを刷新、映画のチケットを模したFilmeet の新ロゴが完成しました。『イベントに参加したら、途上国の子どもたちへ映画のチケットが届く』そんな想いが込められています。
ホームページでは毎週金曜日にFilmeetメンバーの『おすすめ映画紹介』という映画コラムが始まりました。一方で、関西支部ができたものの、イベントの開催数が前年度に比べて少なかったです。2017年度は、2016年度の人気イベントをシリーズ化して、安定的にイベントを行なっていきます。

Filmeet

Filmeet 新ロゴ

活動の実績　関東

【ローグ・ワン公開記念】
どうなるスピンオフシリーズ!?
ここでしか聞けないスター・ウォーズ・アナザー・ストーリー

2017年1月14日(土)
パソナグループ本部イベントホールにて開催。
『スター・ウォーズ』字幕監修者の河原一久さん、映画コメンテーターの伊藤さとりさんによるトークライブ。普段は知られない裏話を聞ける、毎年恒例の関東Filmeetの人気イベント!今回は、プロフェッショナルなコスプレ軍団501stに協力をいただき、会場のいたるところに、『スター・ウォーズ』のキャラクターが…まるで映画の世界に入ってしまったかのようでした。その他、『スター・ウォーズ』ファンによるクイズ選手権も開催しました。最後に、ゲストの河原さんが「日本で映画を楽しむと、遠く離れた誰かの喜びに繋がる」と団体についてコメントしてくださり、このイベントの後に、マンスリー会員になってくださる方もいらっしゃいました。

リーダー挨拶

2017年からFilmeet リーダーに就任しました、金原(きんばら)です。僕がWorld Theater Project に入ったのは、2016年6月。代表・教来石と団体の理念に惹かれて参加しました。以前より会社員をやる一方で、休日は、100人規模の旅イベントを開催したり、市民農園に石窯を作り、それを使ったピザイベントを行ってきました。そうした経験をこの団体でも活かしていきたいと思っています。
映画には、観る人に色々な感情や考え方を教えてくれて、私たちの生活を豊かにしてくれる力があると信じています…そんな映画の魅力をFilmeetを通して、日本のみなさんに知ってほしい。また映画を観るだけでなく、映画の世界感を体感できるようなイベントをFilmeetで作っていきたいと思います。ぜひ、Filmeetのイベントを楽しみにしていてください。

World Theater Project
Filmeet事業部リーダー 金原竜生(きんばら・たつき)

活動の実績　関西

映画のごはんを作って、食べよう!シリーズ

関西支部の人気企画は、クッキングイベント『映画のごはんを作って、食べよう!』シリーズ。その名の通り、映画に出てくるごはんを参加者の皆様で一緒に作って、食べる企画です!
今までに過去2回開催をして、1回目には、ジブリ映画の『魔女の宅急便』から「かぼちゃとニシンのパイ」・『天空の城ラピュタ』から「パズーの肉団子スープ」、2回目には『天空の城ラピュタ』から「シータの海賊シチュー」を作りました。
「たくさんの方とお話しできて、美味しい料理もいただけてとても楽しかったです。」「色んな世代の初めて出会った方とワイワイできて、楽しかったです。」と、20〜30歳代を中心とした参加者の方から大変人気のイベントとなり、産経新聞にも掲載されました。映画のごはんシリーズは、新たに開発中のレシピを使い、関東・関西、それぞれの地域で2017年度も開催していきます。

質問
ラピュタの世界を追体験
「ジブリ飯」で支援イベントって?
途上国の子供に映画届けたい
作中のシチューを再現

2016.12 Filmeeting

2016.8 映画が教えてくれる、小さな幸せのみつけ方

全国・海外での活動

関西支部

World Theater Projectのさらなる国内活動拡大のために、関西支部が発足しました。大阪府を中心とした関西地区での団体紹介イベント開催や外部イベント出展、映画に関するイベント(Filmeet)を開催しています。

関西支部の雰囲気としましては、ミーティングでもイベントでも和気あいあいとしていて、メンバー自身も楽しみながら活動しています。ただ、時にはイベントに向け真剣に悩み、議論し合う一面もあります。

関西支部の活動概要

2016年5月　関西支部発足(4名でのスタート)
2016年8月　団体紹介イベント開催
　　～だから映画で国際協力～
2016年10月　Filmeetイベント開催
2017年2月　ワン・ワールド・フェスティバル出展
2017年3月　Filmeetイベント開催

活動の詳細(ミッション)

関西地区でのWorld Theater Project知名度向上のためのイベント開催や出展、ならびに国内映画イベント事業「Filmeet」の関西地区での実施

関西支部 代表あいさつ

何度かイベントでお会いさせていただいた方々、まだご挨拶できていない方々、いつも大変お世話になっております。World Theater Project関西支部代表の太田(おおた)と申します。私は、関西支部を立ち上げるまではWorld Theater Projectの活動に携わっておりませんでした。

そんな私が大学時代の繋がりをきっかけに、代表・教来石と話をする機会があり、その際にWorld Theater Projectの掲げるミッションに共感しました。自分が力になれるのであればと思い発足したのが、関西支部でございます。最初は右も左も分からないなか、4名のメンバーで日々試行錯誤しておりました。しかし今ではメンバーも総勢9名に増え、ミッション達成のため、日々アクティブに活動している支部となっております。

今年度の活動につきましては、関西支部の立ち上げから始まり、関西支部初のイベント開催、2度のFilmeetイベントの開催、国際協力イベントへの出展、といった活動に取り組んで参りました。これもひとえに皆様のご支援があったからだと、あらためて感じている次第でございます。

次年度以降も、World Theater Projectの「ファン」を一人でも多く作れるよう、皆様に共感していただけるような活動に取り組んで参ります。まだまだこれからではございますが、皆様のご期待に応えられるよう精進いたしますので、これからも応援のほどよろしくお願いいたします。

関西支部代表 太田(おおた)

東海地域

「コーヒー豆と映画で笑顔に」キャンペーン

boum様とSHERPA COFFEE ROASTERS様が、"コーヒー豆と映画で笑顔に"限定ブレンド(コーヒー豆)の売上げから5%をWorld Theater Projectへ寄付するキャンペーンを実施してくださいました。

コーヒー豆は、クリスマスにおすすめの映画などを記載したカード付き。新しいお気に入り映画の発見にも繋がるかもしれません。

キャンペーン対象のコーヒーは、SHERPA COFFEE ROASTERS様の店舗(岐阜県)とオンラインショップで現在も販売中です。

boum　SHERPA COFFEE ROASTERS

海外事業

2016年度は、World Theater Project の海外展開(カンボジア以外の国への展開)にとって、きっかけができた年でした。来年度は、英語ホームページを現在の日本語ホームページと同様に充実させ、Facebookページのファンを増やして、World Theater Projectの活動を世界に広げていきたいと考えております。

海外向け情報発信プラットフォームの整備

■ 英語版の簡易HP、英語専用Facebookページの開設
■ 英語版活動紹介ムービー
　『World Theater Project - Global』のYouTube公開
■ 寄付フォームの海外対応

海外向けTV番組への出演

世界140カ国以上に放送されるTV番組
『NHK WORLD　/ Side by Side』へ出演しました。
　タイトル『Movie Heaven, Once Again -Cambodia-』
　放送日 2016年11月16日

TV出演をきっかけに、海外(イギリス・ドイツなど)からの問い合わせ数が増加しました。

問い合わせ例)
■ イギリス：プロのアニメーターからの問い合わせ。
　　団体広報用オリジナルアニメの作成支援。
■ ドイツ：　ボランティアスタッフとしての応募。(写真前列の左から二番目)

2016年度にご協力いただいた企業・団体様（順不同・敬称略）

株式会社WinJob
株式会社サガミ
株式会社オーエス
アサヒビール株式会社
株式会社ファンドクリエーション
株式会社バリュープレス
株式会社白組
A-LEADS Japan株式会社
（Madori for Children）
株式会社ジェイフィール
LTRコンサルティングパートナーズ
株式会社学研ホールディングス
株式会社東京現像所
株式会社トムス・エンタテインメント
株式会社boum
bluepumpkin

株式会社リコー　/　有限会社海と月社　/ 株式会社新日本映画社　/　株式会社ソーケン　/　アクシー株式会社
合同会社吉祥寺フランス語学院 / 株式会社ザネット /　一般社団法人 オープンイノベーション促進協議会　/　大江橋経営
株式会社センジュ出版　/　株式会社ウィット　/　株式会社浩仁堂　/　Sui-Joh　/　株式会社as one

私たちの活動は、多くの皆様のご支援で成り立っております。
株式会社オーエス様からは、活動当初よりプロジェクターやスクリーンなど上映に欠かせない機材をご提供いただいてまいりました。このたびまた新たに３本のスクリーンを贈呈いただきました。長年の応援に感謝を込めまして、団体より感謝状を贈らせていただきました。

（写真左から　株式会社オーエス　広報　藤枝昭様、教来石
株式会社オーエス　代表　奥村正之様）

2016年度メディア掲載一覧

テレビ
NHK WORLD「Side by Side」
ネットテレビ「アンパカBAR」

ラジオ
「TAKUMIZM」
FMラジオ「simple style ーオヒルノオトー」
調布FM「びゅーサン」

雑誌
JICA広報誌「mundi」
「クレヨンハウス通信」

新聞
産経新聞

WEB記事
Yahoo!ニュース
オルタナS
シゴトタイムズ
アジアマガジン

World Theater Project では継続的にご支援いただける方を募集しています

もしあなたが、「もっとたくさんの子どもたちに映画を届けて欲しい」「World Theater Project を今後も応援したい」と思ってくださったならマンスリー会員として私たちの仲間になっていただけませんか？

お申込みはこちらから

途上国　映画館　検索

URL（ https://worldtheater-pj.net/support/#kifu ）

会員様からのメッセージ

（進谷憲亮様･医師）

World Theater Project（略称:WTP）と出会ったのは東京に出て来て医者として働き始めてちょうど3年が経った頃。その頃の僕は病院での医療行為だけでは人の抱える問題を解決できないと感じ、医療以外の活動にも興味を持ち始めた頃でした。偶然にも代表の教来石小織さんのお話を聞かせて頂く機会がありました。教来石さんのWTPの活動に関するお話にワクワクが止まらなくなり、夢中になって聞き入っていた事を今でも覚えています。その時の僕の目はお話の中に出て来た映画を観るカンボジアの子どもたちと同じ目をしていたと思います。その時すでに「WTPと一緒にカンボジアの子どもたちに映画を届けたい」という夢の種が僕の中に蒔かれていました。

映画を観る子どもたちの顔も勿論ですが、教来石さんと一緒に活動しているWTPのメンバー、そしてカンボジアの大人の方々の生き生きとしている表情もとても印象的でした。映画を観る子どもだけでなく、映画を届ける大人にも夢の種蒔きをしているWTPの活動を応援し続けること。それが僕の夢です。

2016年度財務会計報告

活動計算書

2016 年　4 月　1 日　～　2017 年　3 月　31 日　まで

(単位:円)

科　目	金　額		
Ⅰ 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	153,600		
賛助会員受取会費	1,143,207	1,296,807	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	1,043,751	1,043,751	
3. 受取助成金等			
受取助成金	319,000	319,000	
4. 事業収益			
イベント開催事業収益	235,277		
スタディツアー事業収益	480,200	715,477	
5. その他収益			
書籍販売	27,000		
受取利息	11		
雑収	0	27,011	
経常収益計			3,402,046
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
人件費計	0		
(2)その他経費			
現地上映費	1,470,339		
現地機材費	68,150		
現地交通費	181,190		
現地管理費	392,238		
業務委託費	645,850		
著作権使用料	124,900		
作品製作費	195,208		
印刷製本費	54,932		
諸謝礼	22,856		
諸会費	28,000		
会議費	15,780		
支払手数料	69,768		
為替差損	83,278		
雑費	97,675		
その他経費計	3,450,164		
事業費計		3,450,164	
2. 管理費			
(1)人件費			
人件費計	0		
(2)その他経費			
印刷製本費	281,456		
消耗事務備品費	25,120		
その他経費計	306,576		
管理費計		306,576	
経常費用計			3,756,740
当期正味財産増減額			△ 354,694
前期繰越正味財産額			1,364,518
次期繰越正味財産額			1,009,824

貸借対照表

2017 年　3 月　31 日現在

(単位:円)

科　目	金　額		
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,009,824		
立替金	0		
流動資産合計		1,009,824	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			1,009,824
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0		
預り金	0		
借入金	0		
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		1,364,518	
当期正味財産増減額		△ 354,694	
正味財産合計			1,009,824
負債及び正味財産合計			1,009,824

Special Thanks

World Theater Project会員の皆様

応援団の皆様

アンバサダーの皆様

写真提供

sekashu.com 様　川畑嘉文 様

黒澤真帆 様　猪原 和生様

特定非営利活動法人
World Theater Project

銀行口座
みずほ銀行　世田谷支店（支店番号：212）
普通　1421847
ヒエイリダンタイ　CATiC

銀行口座
郵便振替　10580-40736631
トクヒ）キャティック
【店名】〇五八
【店番】058
【預金種目】普通預金
【口座番号】4073663

HP：https://worldtheater-pj.net/
Facebook：worldtheaterproject
Twitter：@catic0901
Instagram：@world_theater_project
Email：info@worldtheater-pj.net